

# JA全厚連情報



JA熊本厚生連 「婦人科検診車1台および胃部集団検診X線システム一式」を受贈

## 目 次

- 令和8年度診療報酬改定要望等について協議  
事業企画委員会（医師PT・実務者PT）を開催 1
- 本会・歸山理事長のインタビュー記事が掲載  
日本農民新聞（4/15付） 6
- JA山口中央会 前代表理事会長・金子光夫氏などが受章  
令和7年春の叙勲・褒章 7

### ・通信員だより

- 土浦協同病院附属看護専門学校で入学式（土浦協同病院附属看護専門学校） 8
- JA共済連東京より助成を受けMR装置を更新しました（JA東京厚生連） 9
- 第23回院内学術集会を開催しました（相模原協同病院） 10
- 臨床研修医修了証書授与式が行われました（相模原協同病院） 11
- 定年退職者を送る会を行いました（相模原協同病院） 12
- 「世界腎臓デー」啓発イベントを開催しました（伊勢原協同病院） 13
- 「ブレストヘルスサポートチーム」が発足しました（JA山梨厚生連） 14
- 「婦人科検診車1台および胃部集団検診X線システム一式」を受贈（JA熊本厚生連） 17



全国厚生農業協同組合連合会  
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル  
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008  
E-Mail: kanri@ja-zenkouren.or.jp  
(事業管理グループ)  
<https://www.ja-zenkouren.or.jp>  
編集責任者 歸山 好尚



JA厚生連

## 令和8年度診療報酬改定要望等について協議

### 事業企画委員会（医師PT・実務者PT）を開催

大手町のJAビルにおいて、事業企画委員会 医療事業部門（医師PT：3月19日・24日、実務者PT：25日）を開催した。

同委員会での主な協議事項としては、①令和8年度診療報酬改定要望について、②令和8年度税制改正要望について、③令和6年度補正予算への厚生連の対応状況についてなどの協議が、また、報告事項としては、①令和6年度経営収支見込みについて、②公的三団体病院協議会情報交換会の概要等について報告等が行われた。

#### 1 事業企画委員会（医師PT：3月19日・24日）

（1）令和8年度診療報酬改定要望については、本会が加盟する全国公私病院連盟から日本病院団体協議会を通じて要請を行っているが、特に、厚生連病院特有の項目については、自民党議員連盟「農民の健康を創る会」において本会が要請を行うこととなる。

令和8年度診療報酬改定要望では、基本診療料等を引き上げること、救急医療管理加算の算定基準を明確化することを含め12項目の要望とすることについて説明を行った。

委員からは、「敷地内薬局がある場合に急性期充実体制加算が取得できないとされていることに関し、2度の診療報酬改定時期に厚生労働省と協議を行ったところであるが、いずれも、次期診療報酬改定で考慮するとの対応であり、現状のままとなっている」ため、このことを要望としてほしいとの発言や、「救急医療管理加算の算定基準を明確化することについて、厳しい基準で統一されることで、デメリットとなってしまう可能性はないか」等の発言があった。

本会からは、多くの医療団体も令和6・7年度とも病院経営が厳しくなると認識していることから、今後、要望に向け十分な議論・協議が行われていくこととなる。厚生連グループとしても、その中で積極的に情報収集を行うなどにより、しっかり対応していくこととなる。また、委員の皆様にご意見を伺いながら「創る会」の中でも要望の形をとるなどしていく旨回答した。

- (2) 令和8年度税制改正要望については、現時点の本会の方向性として、①有償病床の料金に係る制限（五千円）の見直し、②自費患者（訪日外国人）に対する診療報酬の制限緩和の2項目を要望していく準備を進めていく旨を説明した。
- (3) 令和6年度補正予算への厚生連の対応については、病床数適正化支援事業について委員から、当該県との意見交換等の内容について情報提供があった。

## 2 事業企画委員会（実務者PT：25日）

- (1) 令和8年度診療報酬改定要望に関し委員からは、要望項目の区分としては、「全国共通」と「地方特有」について、それぞれどのような対応となるのかとの意見があり、本会からは、12項目はすべて全国公私病連盟要望することとし、その中でも地方特有のものについては、「創る会」へ要請を行う考えである旨説明を行った。

また、委員からは、「ハイリスク分娩管理加算の要件として年間120件が必要とされているが、分娩件数は同基準（年間分娩件数120件以上）が導入された当時（平成18年）と比べ2/3の水準まで減少していることはデータにより明らかになっている中で、120件とされている基準が変わっていないので、このことも要望とすべきではないか」との意見があった。本会からは、関係医療団体とも協議し検討していく旨回答した。

- (2) 令和8年度税制改正要望については、個室のニーズが一層高まり、特に令和6年度には、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行により病床稼働率が大きく上昇した中で、厚生連のみの要件である有償病床に対する加重平均5,000円の制限に張り付いた状況に対して、患者やその家族のニーズに応えることは必要と考えているものの対応に苦慮している現状について意見交換が行われた。

本会からは、厚生連病院の現状を踏まえ農林水産省や「創る会」の議員等と粘り強く協議を行っていく旨を説明した。なお、5月15日に「創る会」総会が予定されており、令和8年度の税制改正を踏まえ、本会の本件に対する方向性について協議いただく予定がある旨合わせて説明を行った。

## 事業企画委員会 医療事業部門 医師 PT 次第

日時：令和7年3月19日（水）

24日（月）

14時から

場所：J A全厚連会議室

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

### 3. 協議事項

- (1) 令和8年度診療報酬改定要望について
- (2) 令和8年度税制改正要望について
- (3) 令和6年度補正予算への厚生連の対応状況について

### 4. 報告事項

- (1) 厚生連の令和6年度経営収支見込について
- (2) 三団体病院協議会情報交換会について
- (3) その他

### 5. 閉 会

## 事業企画委員会 医療事業部門 実務者 PT 次第

日時：令和7年3月25日(火)  
15時から  
場所：J A全厚連会議室

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

### 3. 協議事項

- (1) 令和8年度診療報酬改定要望について
- (2) 令和8年度税制改正要望について
- (3) 令和6年度補正予算への厚生連の対応状況について

### 4. 報告事項

- (1) 厚生連の令和6年度経営収支見込について
- (2) 三団体病院協議会情報交換会について
- (3) その他

### 5. 閉 会

## 令和6年度事業企画委員会 名簿（実務者PT部門）

氏名	厚生連名	役職
小川 秀幸	北海道	代表理事専務
高久 忠	福島県	代表理事理事長
高木 茂	富山県	代表理事理事長
宇野 修二	愛知県	代表理事理事長
谷口 直樹	岐阜県	代表理事理事長
豊田 達之	広島県	代表理事理事長

## 令和6年度事業企画委員会 名簿（医師PT部門）

氏名	厚生連名	役職
小野地 章一	秋田県	代表理事理事長
高野 靖悟	神奈川県	代表理事理事長
洞 和彦	長野県	代表理事理事長
塚田 芳久	新潟県	代表理事理事長
田宮 隆	香川県	代表理事理事長

## 【参考】

## 令和6年度事業企画委員会 名簿（保健事業部門）

氏名	厚生連名	役職
飯沼 全司	山梨県	代表理事専務
上月 裕司	兵庫県	代表理事常務
三宅 隆	愛媛県	代表理事理事長
西野 良二	熊本県	代表理事常務

## 本会・歸山理事長のインタビュー記事が掲載

日本農民新聞（4/15付）

本会の歸山好尚代表理事理事長が、日本農民新聞よりインタビューを受けた。

当日は、3月開催の臨時総会で決定した令和7年度から始まる3カ年計画と令和7年度の事業計画を踏まえ、厚生連事業を取り巻く情勢とこれからのJA厚生事業のあり方、取組み方向についてインタビューが行われた。

その中では、厚生連事業が置かれている厳しい環境への理解を求めるとともに、JAグループの一員として今後も使命をはたすために「事業・経営支援」、「制度対応支援」、「制度改正要望」、「人材育成」を柱として取組むことを語っている。

記事は以下のリンクから参照が可能

【日本農民新聞 2025年4月15日号】

URL <https://agripress.co.jp/archives/19671>

JA厚生事業とJA全厚連の事業のこれから



インタビューの様子(日本農民新聞)



## J A山口中央会 前代表理事会長・金子光夫氏などが受章

### 令和7年春の叙勲・褒章

内閣府は4月29日、令和7年春の叙勲・褒章受章者を発表した。

J A厚生連関係者で受章された方は以下のとおり。

賞 賜	主 要 経 歴	氏 名
旭日小綬章	前 山口県農業協同組合中央会 代表理事会長 前 山口県厚生農業協同組合連合会 経営管理委員会会長 前 全国厚生農業協同組合連合会 理事	かねこ みつお 金子 光夫
瑞宝双光章	元 愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院 臨床検査室 室長	おかだ げん 岡田 元
瑞宝双光章	元 愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院 看護部長	はせがわ しとみ 長谷川 しとみ
瑞宝双光章	元 徳島県厚生農業協同組合連合会 吉野川医療センター 看護部長	みき ますみ 三木 真澄
瑞宝双光章	元 香川県厚生農業協同組合連合会 滝宮総合病院 検査部 技師長	まつむら たかお 松村 孝雄



通信員だより

## 土浦協同病院附属看護専門学校で入学式

(JA茨城県厚生連・土浦協同病院附属看護専門学校)

土浦協同病院附属看護専門学校で4月8日、第53期生の入学式が執り行われ、看護師を目指す新入生88名が新たな一步を踏み出しました。

式典では、渡部誠一学校長より「出会いを通じて患者に対して優しく、心を大切に、安全な医療を提供する看護師として成長できるよう手助けをしたい」と激励の言葉が送られました。

新入生代表は、「日々努力して理想の看護師に近づいていくと共に、困難に遭遇した際は仲間と助け合いながら成長していくことを誓います」と力強く決意を述べました。

新入生は、これから専門知識や技術を学び、病院での実習を通して看護師としての実践力を養い、3年後には県内の厚生連病院へ就職することとなります。同校では昨年度も看護師国家試験合格率100%を達成しており、教職員一同は、新入生一人ひとりが夢を実現できるよう、全力でサポートしていくとのことです。



決意を述べる新入生代表

(先崎理恵通信員)

## J A 共済連東京より助成を受け MR装置を更新しました

(J A 東京厚生連)

この度 J A 東京厚生連は、J A 共済連東京が地域貢献活動の一環として行っている助成事業の「地域・農業活性化積立金」の助成を受けMR装置の更新を行いました。

J A 東京厚生連では、主に施設健診の脳検査でMR装置を使用しています。

今回導入したMR装置は、最先端のA I 技術の搭載により高精細な画像の構築が可能となり、併せて、静音性の向上、検査空間の拡大もされており、開放的な空間で快適な検査を提供できます。

受診者の脳検査ニーズは高く、組合員・地域住民の健康管理には欠かせない検査となっており、脳疾患の早期発見・治療を目的として、積極的にMR装置を活用していきます。



導入したMR装置

(宮寺健通信員)

## 第23回院内学術集会を開催しました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（渋谷明隆病院長）では、3月8日に第23回院内学術集会を開催しました。渋谷病院長の開会挨拶に始まり、診療部11名、看護部3名、医療技術部3名、事務部2名計19名が演題発表を行いました。各発表後には、審査員や参加者から内容に対しての質疑応答の時間が設けられ、活発な意見が飛び交いました。

厳選なる審査の結果、最優秀賞は臨床研修医の河方孝裕さん、優秀賞は事務部の和智愛里佳さん、臨床研修医の新里美咲さん、医療技術部の松尾興志さんが受賞されました。おめでとうございます。そして、発表されたみなさん、業務のお忙しい中での発表準備お疲れさまでした。



会場の様子



発表されたみなさん

(石井朋華通信員)

## 臨床研修医修了証書授与式が行われました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（渋谷明隆病院長）では、3月17日に第20期生初期臨床研修医の修了証書授与式を行い、渋谷病院長より研修医一人一人に修了証書が授与されました。2年間の研修期間を通して、様々な経験と自信を身につけた若きドクター達の朗らかな笑顔が印象的でした。それぞれ新たな道へと進まれますが、今後のさらなる活躍を期待しています。10名の研修医の皆さんおめでとうございます。



修了証書授与式の様子

(石井朋華通信員)

## 定年退職者を送る会を行いました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（渋谷明隆病院長）では、3月31日に定年退職者を送る会を行いました。渋谷病院長による定年退職のみなさんへの挨拶があり、長きにわたりお勤めくださったみなさんへ感謝の言葉が贈られました。その後、一人一人からの入職当時のエピソードや楽しかったこと、大変だったことなどをお話いただきました。相模原協同病院と共に時を重ねていらした退職者のみなさんのさまざまな思い出に、参加した職員のみなさんも聴き入っていました。長い間本当にお疲れさまでした。



定年退職者のみなさん

(石井朋華通信員)

## 「世界腎臓デー」啓発イベントを開催しました

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）では、3月7日～3月28日にかけて世界腎臓デーイベントを開催しました。

「世界腎臓デー」とは、腎臓病の早期発見と治療の重要性を啓発する国際的な取り組みです。毎年3月第2木曜日に実施されており、腎臓病の早期発見と治療の重要性を啓発するイベントが世界中で開催されています。

当院では腎臓内科医師や看護師をはじめ、臨床工学技士、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、事務員のメンバーで構成された「Team そらまめ」が中心となり、ポスターの掲示やチラシ・パンフレットの配布を行いました。また、今回のイベントでは体成分分析装置による筋肉量や水分量などの体成分測定、減塩食品の紹介、啓発カラーの緑で病院建物を照らすライトアップの実施など昨年より充実した内容となりました。今後も啓発活動に尽力してまいります。



横断幕の掲示



制作した啓発ポスター・チラシなど

(石井朋華通信員)

## 「ブレストヘルスサポートチーム」が発足しました

(JA山梨厚生連)

山梨県厚生連健康管理センターでは、乳がんの予防と早期発見、ブレスト・アウェアネスの啓蒙啓発を目的とした医療従事者による専門チーム「Breast Health Support Team（ブレストヘルスサポートチーム）」を組織して活動を行っています。

活動ページでは乳がんに関する様々な情報を随時掲載する予定です。



「ブレストヘルスサポートチーム」のロゴマーク

■ JA山梨厚生連・ブレストヘルスサポートチームの活動ページ(4月18日時点)

URL : <https://www.y-koseiren.jp/uncategorized/5555>

### <動画で学ぼう！>

2025.3.31

マンモグラフィ検診を受けられる方へ

日本の保険医療機関による動画コンテンツ >

# マンモグラフィ検診を受けられる方へ

BREAST HEALTH SUPPORT TEAM 高濃度乳房と ブレスト・アウェアネス

山梨県厚生連健康管理センター  
乳腺外来担当医 中込 博

見る YouTube

動画「マンモグラフィ検診を受けられる方へ」



## <活動レポート（随時更新）>

2025. 3. 17 乳がん症例検討会を開催しました



会場の様子

3月17日に年度末恒例の乳腺症例検討会を開催し、センター内外より41名が参加しました。他施設の参加も案内していることから、18時～19時30分の開催となりました。ご参加ありがとうございました。



中込医師による報告

今回は2023年度に検診、人間ドックで発見された乳がん症例を放射線科より7例、臨床検査科より3例報告していただきました。さらに当センター乳腺外来担当医の中込医師より、乳房温存手術後のマンモグラフィ検診におけるトモシンセシスの有用性について報告しました。



放射線科の症例提示

放射線科からは腫瘍4例と石灰化病変1例について、過去の検査と比較して提示され、比較読影の重要性が示されました。一方、発育速度の遅い乳がんにおいては1～2年前の検査との比較ではあまり変化がなく、要精検としなかった症例が何例かありました。比較読影のピットフォールを学べたと思います。また、その他の所見で構築の乱れ1例、区域性的石灰化1例、高濃度乳房内の腫瘍1例の興味深い症例が示されました。



臨床検査科の症例提示

臨床検査科からは、小さな腫瘍でマンモグラフィでは検出できず要精検とするか迷った症例（カテゴリー3症例）が提示されました。今回の症例は乳がんと診断されたものですが、カテゴリー3のなかで良性と診断された症例との違いを今後検討していくとのことでした。



温存手術後の乳がんを提示

乳房温存手術後のマンモグラフィは、手術後の変化が強く診断が難しい場合が多いです。その中で5例の温存手術後の乳がんを提示しました。

トモシンセシスでは手術瘢痕が鮮明に描出され、その中に生じた小さな腫瘍を見つけることができました。しかしながら高濃度乳房では、腫瘍の輪郭が描出できない症例もありました。放射線治療

による乳腺の線維化が影響しているかもしれません。トモシンセシスでは放射線量が少し増えることもあり、どのように活用していくかが今後の課題です。

症例検討会では参加者全員が熱心に耳を傾け、改めて乳がん検診の重要性について認識を深めていました。

今後も様々なコンテンツを配信していきますので、ぜひご覧ください。

(志村直樹通信員)

## 「婦人科検診車 1 台および 胃部集団検診 X 線システム一式」を受贈

(JA熊本厚生連)

JA熊本厚生連は、令和7年3月にJA共済連熊本から「婦人科検診車 1 台および胃部集団検診 X 線システム一式」の寄贈を受けた。

今回の寄贈は、JA共済連熊本の「地域・農業活性化積立金」を活用して導入したもので、組合員・地域住民が健康で安心して暮らせる豊かな地域づくりをすすめるため、各地域で実施される集団検診で使用する。

なお、組合員および地域住民の健康維持・増進のため、寄贈いただいた車両および装置を積極的に活用しながら、がんを早期発見し、適切な治療に繋げていく。



①新しく導入した婦人科検診車を前に記念撮影

(左:JA共済連熊本本田裕人副本部長、中:JA共済連熊本橋本明博本部長、右:JA熊本厚生連西野良二常務)



新しく導入した婦人科検診車の外観



新しく導入した婦人科検診車の内部

(多久弘高通信員)